

CONTENTS

年頭に当たって - 2019年

矢田義典・石田 壽・石橋 剛・吉元 学・山田浩史・豊田由紀美 …… 2

緊急連載『ARCHITECT』は必要ですか? …… 6

東海支部×近畿支部 交流会 …… 矢田義典・角 直弘 …… 9

JIA 静岡発 SANAA 記念講演会

SANAA からの贈り物 …… 鳥居久保 …… 10

JIA 愛知発 Nagoya Archi Fes 2018vol.6「田中義彰」

田中流「寛容性のある建築」 …… 吉村昭範・澤田留名 …… 11

東海支部役員会報告 …… 森 哲哉 …… 12

保存情報 第206回 旧庄屋 三井家住宅 …… 川口亜稀子 …… 13

花沢の里 …… 鈴木祥司 …… 13

Bulletin Board …… 14

地域会だより …… 14

新年広告 …… 15

法人協力会通信³⁹ 野村商店静岡営業所 …… 石渡孝司 …… 16

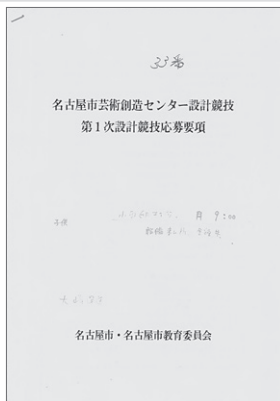
編集後記 …… 城戸康近・中澤賢一 …… 16

設計図は語る ● 10

名古屋市芸術創造センター設計競技

中建築設計事務所 (1951 [昭和21] 年設立)

昨年6月、東京都在住の某建築家から小牧市で開催される小学校新築のプロポーザルに参加するため、受け皿を探している旨のメールを受け取った。しかし弊社では参加資格の業歴に該当する物件が1件しかなく、受け皿になった場合、1次審査を通過するのも不可能であろうと返信した。今日、プロポーザルで設計者選定する場合、応募者の提案や資質を審査する前に、設計事務所の業歴や技術者の数で足切りするのが当たり前となった。本来プロポーザルとはコンペティションで要求される資料の作成と提出物を審査する作業を軽減するための画期的なシステムのはずだったが、いつの間にか応募者を制限するための安易な選別手段として定着してしまった。当時、一級の資格さえも応募資格から外したコンペがあった。名古屋市芸術創造センターの設計競技であった。(ただし2次コンペからは一級資格者との共同が求められた)



名古屋市芸術創造センター設計競技応募要項

1981年名古屋市芸術創造センター設計競技入賞：
中建築設計事務所二代目所長 広瀬一良 設計

2 応募者および応募の手続

- (1) 応募資格
応募者は、愛知県内に在住または在勤の者とし、一級建築士以外の応募者は、第2次設計競技以降は愛知県内に在住または在勤の一級建築士と共同して行う。
ただし審査員は、この競技に応募し、または応募者と共同して行なうことはできない。

一級の資格さえも応募資格から外したコンペだった

廣瀬高保 (JIA 愛知) |
中建築設計事務所



荒波を乗り越え、 生まれ変わる東海支部

東海支部長

矢田 義典



新年あけましておめでとうございます。

支部長に就任し、早いもので半年が過ぎました。未だに支部長職には慣れない部分が多いのですが、半年を経て、少しずつですが職務内容を冷静に俯瞰することができるようになってきました。

昨年は、年度始めより、事務局員が二度にわたり交代するといったドタバタ劇があったのですが、現在は新任の瀬川さんと荒川さんによるサポートで事務局をしっかりと取りまとめたいただき、落ち着いた状況で業務の執行ができるようになりました。また、支部長就任早々には、機関紙『ARCHITECT』の問題提起をし、東海支部会員の皆さまから多くの意見を頂戴いたしました。皆さまのご意見を参考に、支部方針をまとめ、2月には東海支部会員集会を開く予定です。この際に提起した問題点は大きく二つに集約されます。一つ目は、「東海支部の予算に係る問題」、二つ目は、「原稿の書き手の問題」です。この二つの問題は、「JIA 東海支部の継続性をどう考えるか」と捉え直していただいても構わないと思います。機関紙『ARCHITECT』は、「瀕死」の状態だと原稿に書き、東海支部会員皆さまの奮起を促したのですが、現在の「建築家」や「JIA」が置かれている状況を考えると、疲弊しているのは私たち会員自身かもしれません。この状況を打破することは簡単なことではないかもしれませんが、少しずつでも未来へと続くような取り組みを継続していきたいと考えています。さらに、昨年末には静岡地域会長が任期途中で交代するといった出来事もあり、波乱大きな一年であったと思います。

それでは、昨年を振り返りながら今年の東海支部はどうかと考えたとき、まず、年頭には本部理事の改選が行われます。この原稿が『ARCHITECT』に掲載されるころには正式発表がなされていると思いますが、全国10支部の中で最も若い構成で本部理事会にのぞむこととなります。前任の石田本部理事（今年の本部総会までは本部理事）には厚く御礼申し上げ、新本部理事とともに東海支部会員の皆さまの期待に応えられるよう、職務に励んでいく所存でございます。さらに、今年は、「東海支部大会」の開催年にも当たります。順番でいくと愛知での

開催となりますが、今年は、3年に一度の、「愛知トリエンナーレ」の開催年でもあります。支部大会を開催するに相応しい状況が揃っているのではないかと感じています。吉元愛知地域会長と十分に協議を行い、今までとは少し違う形での「東海支部大会」を開催できればと考えています。東海支部は各地域会が活動の主体であると認識をしていますので、支部大会を開催する場合は、私も一人の愛知地域会会員であることを念頭に事業に取り組むつもりです。

ここまでは、『ARCHITECT』、「支部大会」の話を中心に原稿を書いています。東海支部には他にも、「建築設計競技」、「卒業設計コンクール」、「東海住宅建築賞」、「建築と子供たち全国会議」の4つの事業があります。事業によっては設立当初の意義、目的から外れているものもあり、事業ごとに意義、目的の再確認をお願いしています。東海支部の宝である『ARCHITECT』へも切り込んでいったように、どの事業にも聖域が存在するとは考えていません。また、三重地域会では三重県と、「建築防災教育等に係る協定」の締結が控えています。この協定はJIA 東海支部の存在意義を高めるのに十分なものだとして認識しており、これらの件に関しては、今年の支部総会でご報告できるのではないかと思います。

この原稿を書きながら思ったのですが、私には総務的な仕事が似合っているのかもしれませんが。東海支部の活動主体は各地域会であると考えれば、華やかな事業は各地域会にお任せし、私の任期中は未来の東海支部のために奉仕することも大切なかなと考えています。今年も会員の皆さまのご支援、ご協力の下、未来の東海支部を見据えた上での職務を遂行していきたいと考えています。

稚拙な文面であることをお許しいただき、皆さまどうぞ今年も一年間、よろしく願いいたします。

建築、社会、JIA の在り方を見直す一年に

本部理事

石田 壽



東海支部の皆さま、新年あけましておめでとうございます。年頭に当たり皆さまのご多幸とご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

東海支部からの本部理事として2年目となりました。新年を迎えるに当たり、2018年の1年を振り返り、新たな年に期することをお話します。

昨年は、6月に大阪北部を震源とする地震が発生、7月に西日本豪雨、9月には大型の台風21号が近畿地方を縦断と北海道胆振東部地震が発生等々、多くの災害にみまわれた日本列島でした。災害で被災された地域および被災者の皆さまには心よりお見舞い申し上げますとともに、迅速な復興と対策を進める必要があります。

建築業界では、またも不正が発覚し社会を騒がせています。KYBによる免震・制震装置(オイルダンパー)の性能検査データの改ざんで、建築にかかわる不正が後を絶ちません。コストと工期に捉われた生産システムが影響していると思われます。業界だけでなく、発注者を含めた社会の問題であり、建築生産システムの見直しが必要ではないでしょうか。

JIAに目を向けると、「ARCASIA 東京大会2018」と「JIA 建築家大会2018東京」がそれぞれ「Simplicity/Multiplicity」「素なることと多様な相」をテーマに連携して開催され、東海支部からも多くの会員の方に参加していただきました。また、本部では、「本部委員会体制の見直し」、「本部・支部財政の検討」を進めています。「委員会体制の見直し」では、昨年度より検討を始め、教育表彰委員会を再編し表彰事業委員会と教育事業委員会に分けて、各々のミッションを明確にするものです。全国学生コンクールも本部の事業として位置付けようとしています。各支部で実施している学生卒業設計コンクールとの関係を議論する必要があります。フェロシップ委員会は新たにできる教育事業委員会に再編することも検討しています。(仮称)「JIA スクール」と冠としたブランディングの構築、NPO組織の立ち上げ、全国会議のあり方など、多くの検討課題があります。「本部・支部財政の検討」では、会員の減少が進む中で財政の検討が必要とこのことで始まったばかりです。建築設計を目指す若い人の減少、1級建築士資格の取得困難な現状、会員の高齢化による退会など、会員減少の要因は多々あります。財政問題は喫緊の課題であり、むやみに会員を増やすことが目的ではないのですが、会員を増強あるいは維持していくには、抜本的なJIAのこれからの姿・方針を示す必要があるの

ではないでしょうか。検討の中では、「会費配分の本部：支部比率の見直し」、「支部運営費配分額の見直し」、「会費の値上げ」、「本部役割の縮小削減」などが上がっています。今後も本部のみならず支部・地域会でも議論しなければならない課題です。

また、今後建築市場の縮小が懸念される中で、設計施工一括方式等の多様な発注方式やCM業務の浸透、第4次産業革命とも呼ばれるICT(情報通信技術)・BIM・AIなどの進展により、設計業務へ重大な影響を与えられると思われまます。JIAはその将来像を検討するため、「近未来研究特別委員会」が準備委員会からバトタッチし、本格的にスタートしました。昨年の年頭所感で、「JIAは2030年に生き残っているか」と「建築家(専業)は2030年に生き残っているか」を問い、共に考えようと記したのですが、考えていただけていますか? 「近未来研究特別委員会」の報告は出ていませんが、特別委員会の成果を議論し、これからのJIA運営及び次世代に向けた提言としたものです。

東海支部では、支部財政が厳しい中、会報誌『ARCHITECT』の継続に関するアンケートが実施されました。継続か休刊か、私たち会員一人ひとりが真剣に考えて結論を出すことが重要です。今年の2月には会員集会が開催され、議論の場が設けられます。支部の総会で決議する前に十分な意見交換をしましょう。

最後に、労働力不足が叫ばれています。建築業界だけでなく介護福祉・医療の現場、生産工場等、多岐に渉ります。少子高齢化で労働人口の減少もありますが、労働環境・賃金格差による若者の離職などの影響も考えられます。本当に豊かな社会とはどうあるべきなのでしょう。労働人口を増やし、経済発展を推し進め、GDPを上げることが豊かな社会につながるのか。文化・歴史・伝統を大切に、環境とうまく共生する社会の方が豊かなのではと思うのですが。前述したように、建築の生産システムが変化し、発注方式も多様化が進んでいます。このことは設計界に非常に大きな影響を及ぼします。私たちに何ができるか、豊かで健全な社会とは何か、「建築を文化に」との建築基本法の制定も視野に入れながら考えてみようではありませんか。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

入会したくなる JIA とは

静岡地域会幹事運営局長

石橋 剛



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

今年度より東海支部の幹事、静岡地域会の幹事運営局長となり半年が過ぎたところです。この原稿を書いている今は、ちょうど、2019年度の事業計画や予算案を地域会役員で検討しているところで、普段は地域会長任せにしている地域会運営の将来とといったことについてもいろいろと考えをめぐらせております。

なんといっても一番の課題は会員数の減少だと思えます。静岡地域会の運営費は主に会員の地域会費と法人協会の会費、イベントごとの参加費などによります。しかし、会員数の減少とともに収入も減り、ここ数年は積立金からの取り崩しが続いており、要するに赤字が続いているということで、このままでは近い将来続けられなくなることが予想されます。毎年の地域会総会で報告されていることとはいえ、私もそうしたが、役員になって初めて見えてくることも多く、これまで先輩たちが取り組んでこられたことにもようやく気づかされることもまだまだあります。

さて、会員数を増やすには地域の建築家にとって魅力的な団体になっていないといけません。入会したくなる（とくに若い人が！）JIAとはどういったものでしょうか。まず、会費が高いと思えます。個人的な意見としては、ジュニア会員といった中途半端なものではなく、30代はもうちょっと安い会費で正会員になれるといったことが必要だと思えます。他の地域会も同様と思えますが、静岡地域会では30代、40代の会員が数えるほどしかいません。入ってみてわかることだと思いますが、静岡地域会の場合、年齢に関係なく意見を言い合える場があり、若いからといって居心地が悪い思いをすることは無いと思えます。今はウォッチングや講演会などのイベントが事業の中心ですが、理想を言えば、互いの作品を批評しあうような場ができていったらいいなと思えます。また、入会のきっかけとして、私もそうでしたが、JIA会員が参加できるコンペは魅力的だと思います。有名建築家が審査員で、参加資格はJIA会員というコンペは若い建築家にとって入会のきっかけになると思えます。まとまりのない話で恐縮ですが、今後とも、微力ながらJIAを盛り上げていけたらと思えます。

コミュニティとしての 地域会を考える

愛知地域会長

吉元 学



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願申し上げます。2019年は地域会長拝命2年目となり、さらなる愛知地域会ならではの活動を考えながら進めてまいります。

名古屋のまちでは中日ビル・丸栄百貨店・旧東海銀行本店ビルなど長年親しまれた建築たちが人生を終えつつある。新聞を始めマスコミでは建築物の評価は「古い建物でも文化的な価値のあるものは大切であり保存すべきだが、古いだけの建物は建て替えて、まちを活性化することが必要であり経済波及効果は〇〇億円である」という論調である。本当にそうだろうか？ ジェイン・ジェイコブズは『アメリカ大都市の死と生』の中で都市が多様性を持つための4つの条件を示した。その1つに「古い建物と新しい建物を混在させる」という項目がある。古い建物というのは歴史的価値が高い建築ではなく、古い建物は家賃が安く「若者の挑戦的な試み」や「利益は少ないが公益性の高い事業」がまちで持続可能になり、都市の多様性が担保されるという意味である。新築で家賃の高いビルに「モノの売れない時代」に対応した経営ができるのだろうか？ ジェイコブズの考え方は個別から全体へ帰納法的な発想法だ。また、愛知県立芸術大学の水津功氏が堀川についてのレクチャーの中で「地域固有の価値」について話された。地域の人々が自分で価値を発見し、それを地域で共有することの重要性を説かれた。今こそ「地域のための・地域の人にしかわからない・地域だけの価値」をみんなで見つけていかなければならない。広井良典は「コミュニティを問いなおす」の中でコミュニティを3つの視点で分析している。「生産と生活」、「農村型と都市型」「時間（テーマ）と空間（地域）」である。伝統的なコミュニティが失われつつある現代で、独立した個人が集まる「都市型」の面や、さまざまなコミュニティのバランスが重要だと説いている。経済はグローバル化しているが、今の社会は「地域から考える」、「コミュニティとして考える」という視点が大切になっている。「JIAの地域会」も同様ではないだろうか。

参考文献

『アメリカ大都市の死と生』（鹿島出版会）ジェイン・ジェイコブズ著 山形勲生訳
『コミュニティを問いなおす—つながり・都市・日本社会の未来』（ちくま新書）広井良典著

地域会について考える

岐阜地域会長
山田 浩史



新年あけましておめでとうございます。日頃よりJIA活動にご協力いただき、ありがとうございます。

岐阜地域会では「JIAの窓」といった事業をここ数年継続して行っております。「地域で活動している非会員の建築家や建築を学ぶ学生に窓を開いて参加してもらう」といったコンセプトに基づき、手法は講演会・建築見学会・座談会と、多岐にわたって開催してまいりました。この事業を通じて交流を図ることが第一の目的ですが、その先に会員拡大が大きな狙いとしてあります。昨年は、JIAの窓にて講演会を行い、多くの若い建築士の方に参加いただき強い手ごたえを感じております。

少人数での活動を余儀なくされている現状、会員増強が必須の課題ではありますが、そのために必要なのは魅力のある事業の開催、しかしながら少人数では多くの事業展開は難しい、といったジレンマに直面しています。そこで、昨年新たな取り組みとして、愛知地域会さんとの協働事業を行いました。今回は最初ということもあり、協働というには程遠く、愛知事業委員会さんの事業に参加させていただく形になりましたが、小学生対象の「建築教室」開催に加わりました。多くの人手が必要で、現在の岐阜地域会だけでは開催が難しい事業であり、良い経験をさせていただきました。当日だけではなく委員会にも参加することが、この企画の大きなポイントです。会員減少が続く中、こうした地域会の枠を越えた活動は、今後もっと必要になってくると思われましますし、そうすることで会員拡大につながる魅力的な事業の幅を広げることができると考えています。

会員数が減れば、会の活動は難しくなり、存続の危機、最終的には解散もしくは合併へと進んでいきます。地域会の場合、合併という選択肢もあるのかもしれませんが、しかしながら、岐阜に地域会のない団体に、岐阜の会員が入会するかは少々疑問です。新たな岐阜の会員が入ってこなければ、それは消滅に等しく、それを思うと合併は難しいのかもしれない、と最近思うようになってまいりました。地域会は存続させることが第一、そのうえで近隣地域会とのつながりをより深くしていく。そうして地域会の魅力を高め、新たな建築家の仲間を増やす。より多くの建築家の仲間と、地域の未来を語り合いたいものです。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

「防災」をテーマに

三重地域会長
豊田 由紀美



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

三重地域会の会長となって一年目、継続事業をはじめ、多くの活動を活発に行うことができました。これも、ひとえに会員の皆さまのご協力をいただけたからだと思えます。心よりお礼を申し上げます。

昨年は「防災」をテーマに活動をしてきました。まずは、三重県と東海支部との防災協定を結ぶための協議です。協定を結んだ先に、行政とJIAとの協働による有意義な活動が実現可能になるよう、防災対策部、県土整備部、教育委員会などさまざまな部署の方々に協力をいただいて協議を重ねています。8月には有志会員による福島県への仮設住宅や復興住宅視察研修に行ってきました。その後、和歌山県から森岡茂夫氏をお呼びし、防災をテーマに講演をいただきました。2月には「ドローンと防災」をテーマに森羅万象匠塾を企画しています。

継続事業としましては、建築ウォッチングで尾鷲方面に出かけました。他地域会の会員や一般の方々にも参加をいただき、例年より大勢で大変楽しい1日を過ごせました。参加者は2班に分かれ熊野古道ウォーキングと須賀利散策を行った後に合流し、土井見世住宅や尾鷲小学校を見学しました。尾鷲市の協力のおかげで詳しい解説もいただき、無駄のない行程で移動ができたことに感謝しています。

現在は建築文化講演会に向けて準備をしていますが、同時開催の建築展への参加も募っているところです。今回は会員以外からも出展をいただくことにしましたが、その方々がこの講演会や建築展を通じてJIAに興味を持っていただき、入会していただければと期待しています。他にも教育支援として三重短大の設計課題に参加、会員研修として例会時に法人協力会員による建材研修や会員発表を行うなど、多くのCPD研修を行うことができました。今年も充実した企画を考え、一人でも多くの会員に参加してもらえるよう努力をしておりますので、ぜひ、会員の皆さまも積極的に参加をお願いいたします。

ARCHITECT 存続の危機!?! / ついに休刊!?! / 30年の歴史に幕、廃刊か!?!

ご意見下さい、会報誌『ARCHITECT』は必要ですか？

東海支部会員のみなさまへ重要なお知らせです

突然ですが、東海支部会員のみなさま。東海支部独自の会員サービスとして、皆さまのお手元に届いている会報誌『ARCHITECT』が存続の危機にあることをご存じでしょうか？

この緊急連載は、今後『ARCHITECT』がどうあるべきかを、支部会員の皆さまと考えるため、『ARCHITECT』に関わるさまざまな情報を、あくまで客観的に提供する連載です。

前回は支部会員外の外部の方々からの『ARCHITECT』に対する評価をお伝えしましたが、今回は11月に実施した継続・休刊に関するアンケートの結果をお伝えします。

アンケートにご回答いただきました皆さま、ご協力ありがとうございました。

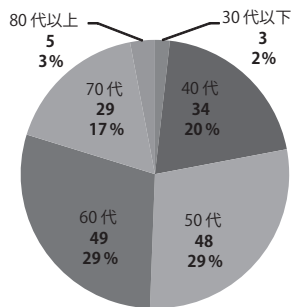
Q1 あなたの会員種別を教えてください。

地域会	会員総数			小計 (回答率)	法人協力会員	総計
		正会員	準会員			
静岡地域会	62	24	2	29 46.80%	5	34
愛知地域会	254	108	7	115 45.30%	20	135
岐阜地域会	18	7	0	8 44.40%	5	13
三重地域会	32	16	0	16 50.00%	9	25
合計	366	155	9	168 45.90%	39	207

.....正会員・準会員 168名の集計結果.....

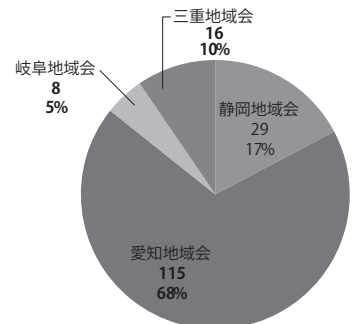
Q2 あなたの年代を教えてください。

	回答数
30代以下	3
40代	34
50代	48
60代	49
70代	29
80代以上	5
計	168

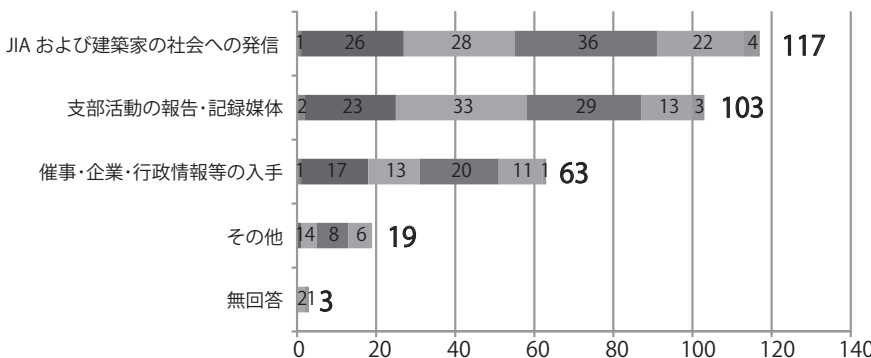


Q3 あなたの所属地域会を教えてください。

	回答数
静岡地域会	29
愛知地域会	115
岐阜地域会	8
三重地域会	16
計	168

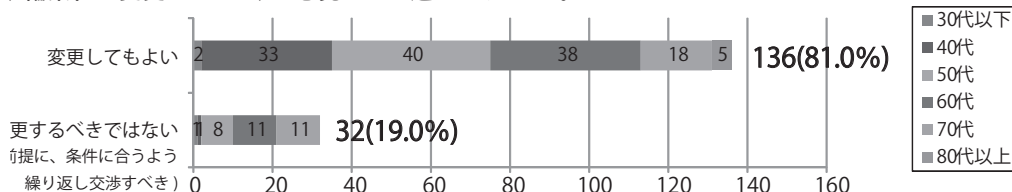


Q4 あなたが会報誌『ARCHITECT』に求めるものは何ですか。(複数回答可)

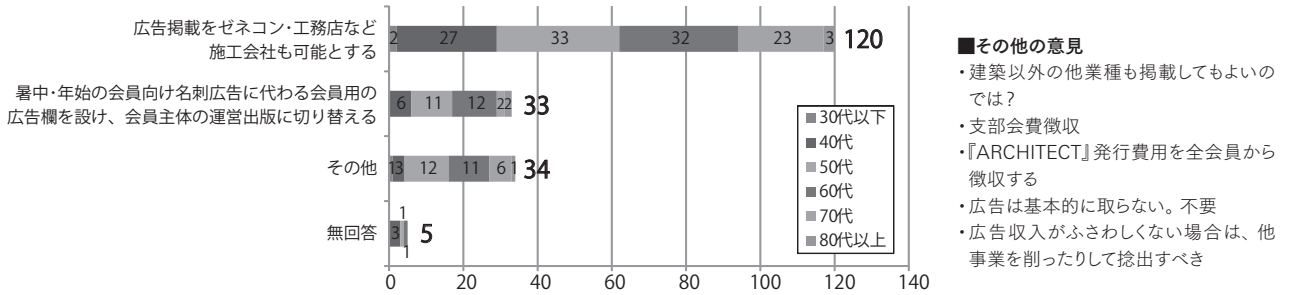


- その他の意見
- ・会員相互の情報交換・交流
 - ・執筆訓練, 会の議論の場
 - ・組織力強化, 会員増強
 - ・すべてのアーカイブ
 - ・お手軽な、気楽な読み物
 - ・会員の近況、地域会の情報
 - ・会と会員の直接的なつながりのシンボル
 - ・会員同士の紙面を通じた交流

Q5 編集費用について、編集社(建築ジャーナル)を変更することで、これまでと同様の収支体制で毎月発行を継続することができますが、編集社の変更について、ご意見を一つ選んでください。

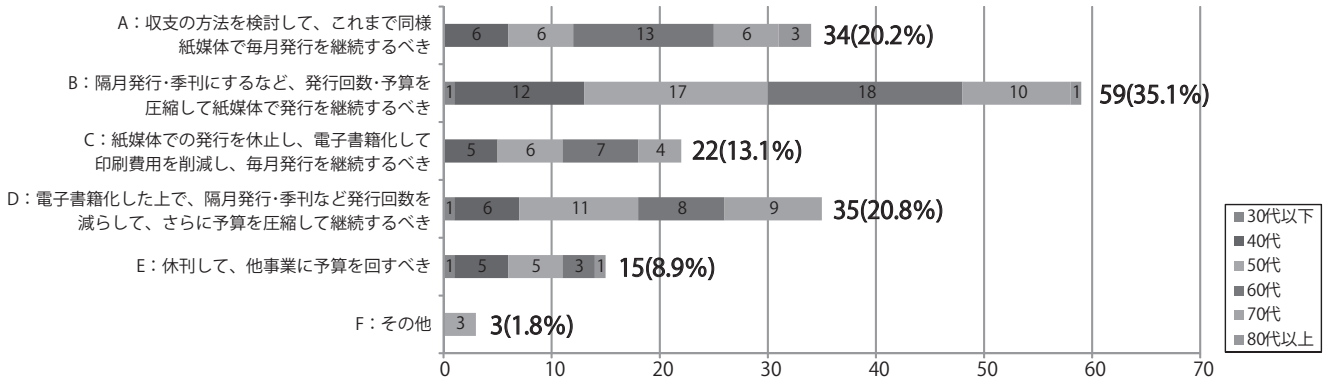


Q6 継続のため、広告収入を増強する体制を再検討していますが、賛同できるものを選んでください。(複数回答可)



- その他の意見**
- ・建築以外の他業種も掲載してもよいのでは？
 - ・支部会費徴収
 - ・『ARCHITECT』発行費用を全会員から徴収する
 - ・広告は基本的に取らない。不要
 - ・広告収入がふさわしくない場合は、他事業を削ったりして捻出すべき

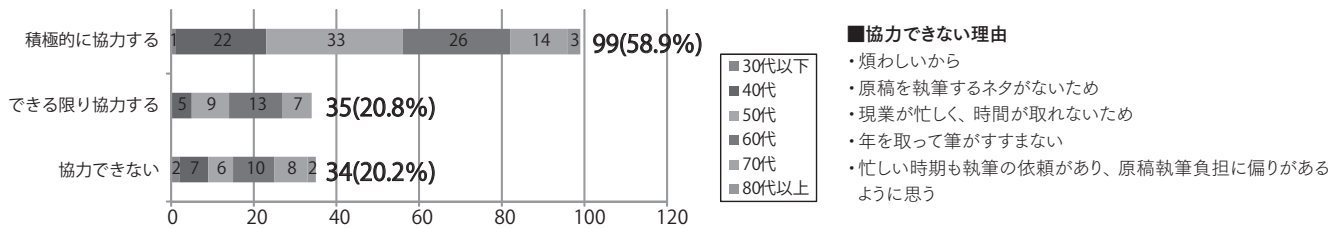
Q7 会報誌『ARCHITECT』の継続について、どうするべきだと思いますか。その理由も教えてください。



A・Bは紙媒体の発行が重要との選択で、合わせて全体の55.3%であり、半数以上が紙媒体を希望するという結果。
 A・Cは毎月発行が重要との選択で、合わせて全体の33.3%。これに対して、B・Dは必ずしも毎月発行である必要はないとの選択で、合わせて全体の55.9%。
 E: 休刊 選択の理由(会報誌の意義、支部全体の財政見直しに言及する意見多数)
 ・意義を検討し、JIAの方向性も考えながら一度白紙から考え直すべき。本部からの会報誌で十分。対外的発信としての効果がどれほどあるのか疑問であり、内部での情報共有という価値はあると思うが、費用の問題を考慮すると、費用対効果が疑問。その分、他事業や会費をこれ以上高くしないことに意識を回さないことには、会員はますます減少するのでは、と考えるため。
 F: その他の意見(A～Dの折衷案の提案)
 ・役割分担をして情報を発信する。建築家の発信はWebと紙媒体、記録や行政情報ほかは電子化して検索しやすくする。

Q8 継続の場合、今後の誌面内容向上のため、積極的な原稿執筆にご協力いただけますか。

※「積極的に、ではないが協力する。」というコメントを欄外に記述する回答が一定数あったため、「できる限り協力する」という選択肢を追加してまとめました。



- 協力できない理由**
- ・煩わしいから
 - ・原稿を執筆するネタがないため
 - ・現業が忙しく、時間が取れないため
 - ・年を取って筆がすずまない
 - ・忙しい時期も執筆の依頼があり、原稿執筆負担に偏りがあるように思う

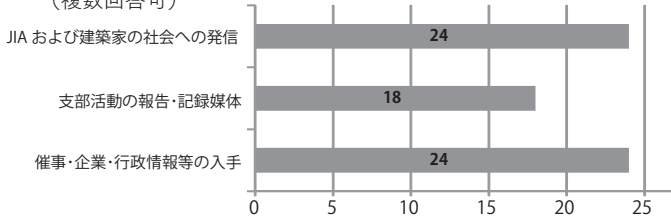
Q9 その他、ご意見ある方はご自由にお書きください。

- ・会員全員が会誌の継続に協力するのが望ましい。一度休刊したら復刊することは不可能。
- ・内向きの情報ではなく、もっと外向きの情報発信を行っていかないと、JIAの未来はないと思います。
- ・情報発信などと大上段に構えず、気楽に楽しく読めるモノでいいのでは…。
- ・広告料が適正かどうか不透明であること、また地域によって負担の差があることなど、すべての会員にとって平等であるためには広告収入に頼らずに、無理に紙媒体での継続を続けなくてもいいのではないかと思います。
- ・外部専門家に原稿依頼をしたものや、外部に発信すべきものは紙媒体が良い。報告事項はメール配信にしてHPでも閲覧できると良いのでは。
- ・今までの『ARCHITECT』の役割は情報伝達とアーカイブの役割だった。この時代、情報は多く勝手に届いてくる。そんな中で活字にして送るだけでは読まれない気がします。
- ・適材適所に割り振り、『ARCHITECT』は建築家の意見や議論の場、もしくは文化的なテーマなど魅力ある記事にしてそれらを一般の方が手にとって興味をそそる変革を望みます。
- ・東海支部における『ARCHITECT』の貢献度は十分に理解した上で、従来通りの誌面内容では魅力に欠けると思います。また、今まで通りの広告費の集め方も見直しをすべきではないですか。
- ・このタイミングは建築家が抱えている問題点や不安にも合致していると思うので、機会を逃すとJIA東海自体の発信力低下にもつながると考えます。
- ・最悪8p体制隔月発行としても紙媒体を死守。本部・支部報告を割愛して、建築の心を謳歌するような多分野にわたる外部の執筆者に年一本をお願いしてでも存続させられないだろうか。

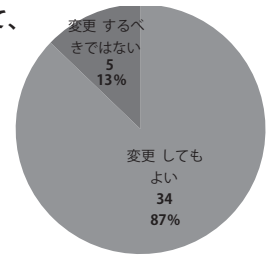
法人協会員 39名の集計結果

Q4 あなたが会報誌『ARCHITECT』に求めるものは何ですか。

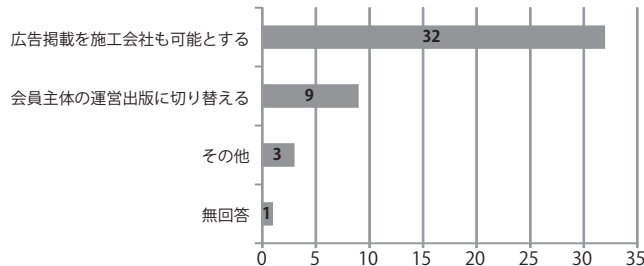
(複数回答可)



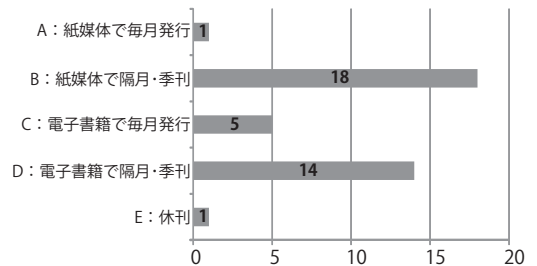
Q5 編集社の変更について、ご意見を選んでください。



Q6 継続のため、広告収入を増強する体制を再検討していますが、賛同できるものを選んでください。(複数回答可)



Q7 会報誌『ARCHITECT』の継続について、どうすべきだと思いますか。



Q8 その他、ご意見ある方はご自由にお書きください。

- ・ 予算を抑えていく必要を感じます。他建築関係団体の年会費よりも高額であるのに加え、さらに広告費の費用負担が厳しいので広告掲載を止めたい。
- ・ 広告収入を増やさないで継続の方法を検討してほしい。賛助会などの負担も減らした方がよい。
- ・ 設計士様方の努力の賜物である会報誌はぜひ継続していただきたく存じます。

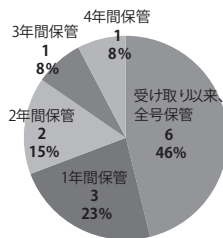
寄贈送付先 13カ所の集計結果

今回、『ARCHITECT』を毎月送付している本部他支部や東海四県の主要な行政庁、図書館、学校など約130カ所にもアンケートを実施し、13カ所から回答をいただきました。

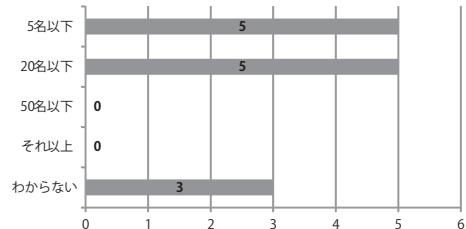
愛知県図書館／愛知淑徳大学(建築・インテリアデザイン専攻)／岡崎市役所建築課／岐阜市女子短期大学／公共建築協会中部地区事務局／JIA 北海道支部／高階澄人建築事務所／豊田高専／トライデントデザイン専門学校／名古屋市鶴舞中央図書館／名古屋大学工学図書館／名古屋都市センターまちづくりライブラリー

Q1 保管状況について教えてください。

	回答数
受取り以来、全号保管	6
1年間保管	3
2年間保管	2
3年間保管	1
4年間保管	1
合計	13

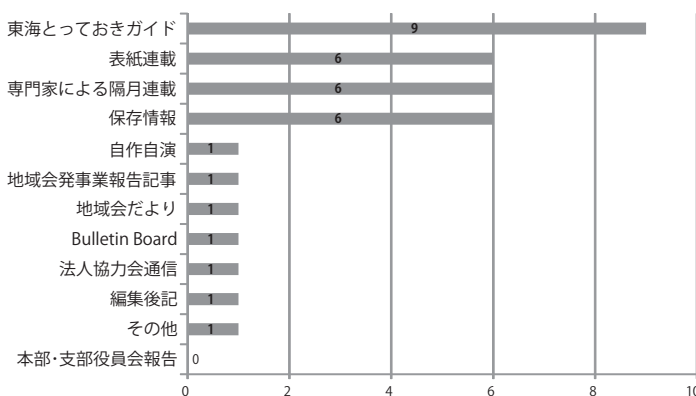


Q2 閲覧人数について教えてください。(予想で結構です)



Q3 興味を感じる、おもしろいと思われる記事を教えてください。

(複数回答可)



Q4 今後の送付について希望を教えてください。

	回答数
今後も送付してほしい	12
どちらでもよい	1
受け取りを辞退したい	0
合計	13

Q5 『ARCHITECT』についてのご意見をご自由にお書きください。

- ・ 大学の先生方の考え方、プロの考え方がよくわかっておもしろいです。ぜひ続けてください。
- ・ 最近なくなっていく建築が多いと思います。中日ビル、丸栄、ナゴヤキャッスルホテルなど。保存情報のような記事は大切だと思います。
- ・ 紙ベースの会報を北海道支部でも復活させる動きがあります。会員が支部の活動を理解しやすいので支部長が力を入れてすすめていきます。

今回のアンケート結果をふまえ、2月9日(土)に会員集会を開催します。会員の皆さまには、ぜひご参加いただき、継続、休刊、どのような結果になっても、これまで30年続いた『ARCHITECT』の今後について会員全員で議論しましょう!!

東海支部×近畿支部 交流会

「災害対策」など参考にすべき活動多数

東海支部支部長／矢田義典建築設計事務所
矢田義典

さる、10月19日、「東海支部2018年度 第5回 支部役員会」の後に近畿支部との交流会が開催されました。近畿支部からは井上支部長をはじめ6名の方々にご参加いただき、和やかな雰囲気の中、活発な意見交換ができました。互いに学ぶべきところが多く、特に近畿支部の活動においては、「コンベの支援」、「法人協力会員とのデザイン開発」などは興味深い活動だと感じました。さらに、支部単位で「JIA近畿支部基本政策」をまとめられ答申書といった形で発表されていることも素晴らしいと思いました。また、最近、近畿支部が行政への協力事業として取り組んでいる、「災害対策活動」も見習うべき点が多いと感じました。なかでも、特筆すべきは「子供向け防災教育」の取り組みでした。これは、近々、三重地域会が締結するであろう、「建築防災教育等に係る協定」へも十分に反映できる内容でした。

それでは、私たち東海支部は、どうかというと、これは4地域会の活動、そのものが支部活動だと言えるでしょう。静岡地域会における「JIA静岡NEWS」は、近畿支部参加者からも少し驚きの声が出る



ほど、充実した内容であり、『ARCHITECT』の見直しを検討している当事者としても、正直、感心しました。また、愛知地域会は他支部同等の活動を展開しており、あらためて、伝統の重み、事業の素晴らしさを一人の愛知地域会会員として誇らしく感じました。今後、吉元地域会長の下、さらなる高みへと移行されていくことであろうと期待しています。岐阜地域会、三重地域会は会員数が少ないという、ハンディキャップを持ちながらも、独自の事業展開をされており、岐阜地域会の「JIAの窓」や「キャンプ前プロジェクト」は地域の若手建築家を引き込んで面白い展覧会になることを期待していますし、三重地域会における、さまざまな事業もとても魅力的だと感じました。また、三重地域会では、「建築防災教育等に係る協定」で、防災教育において東海支部のリーダーシップを発揮して欲しいと考えています。全国には10支部があり、それぞれに独自の活動が展開されています。今後は地域の特色を生かしつつ、建築家団体として一つになるべきだと思います。近畿支部、東海支部ともに素晴らしく、やはり、建築家は素晴らしいなと感じました。

東海支部の機関誌発行事業に大いに刺激を受ける 参考にすべき活動多数

近畿支部副支部長／設計組織DNA
角 直弘

東海支部会議室にて近畿支部井上久実支部長以下5名の副支部長（松尾、岩田、木村、倉方、角）で「近畿支部×東海支部 交流会」へ参加させていただきました。拙文は広報担当の副支部長としての立場で書かせていただきます。

広報委員に就任し3年目になります。この間、本部や他支部、他団体のWEBページを見つつ、近畿支部にとって参考になる方法を検討してきました。その中で近畿支部のWEBを微調整し、FaceBookページを立ち上げ、情報を拡散できる体制を整えました。残念ながら、近畿支部では機関誌『翔』が途絶えて10年になります。そんな中で紙媒体の機関誌復活の検討をしたこともあり、東海支部に問合せし、機関誌『ARCHITECT』の予算構成を教えてくださいましたが、支部の財政状況、委員会の負担を鑑みると、非現実的なことはすぐに判断できました。代替えツールとして毎月のメルマガをテキストベースから、HTML化として、見やすくするとともに、会員向けの情報媒体へのプラットフォームとしました。



交流会では愛知、静岡、三重地域会よりそれぞれ地域会で発刊して



交流会の様子

いる機関誌を紹介いただきました。発刊サイクルに差はあるものの、地域会活動における会員間の情報ツールであり、アーカイブとなっていることに大いに刺激を受けました。倉方副支部長とも話をしましたが、これらの団体機関誌を集めて研究するだけでも、建築家史や建築士史が書けるのではないかと感じます。後世の後輩たちに、現代の建築家の考え、行動を伝えることの重要性を再確認し、近畿支部でもしっかりとしたアーカイブができるよう仕組化していきたいと思います。

吉元地域会長からは近畿支部の活動は刺激になるとの言葉をいただきましたが、われわれの方こそ、大きな刺激を得ることができたと思います。今後も支部間交流のみならず、連携、協力、なにより仲間を増やし、わくわくするような活動ができればと思います。

SANAA からの贈り物

2018年11月2日、静岡県建築士事務所協会の創立50周年を記念して妹島和世・西沢立衛/SANAAの記念講演会が「建築と地域性が紡ぎ出すもの」という演題のもと、催された。講演開催のきっかけは、静岡市がこの50年間にわたって温め続けてきた悲願の博物館構想がようやく実現の運びとなり、その設計者にプロポーザルを経てSANAAが選定されたことにある。現在、基本設計がちょうど終了する時期であり、静岡市の口利きもあって、今回の講演会が実現した。後援には静岡県、静岡市、浜松市とともにJIA 東海支部も名を連ねている。

妹島氏、西沢氏の両氏は、このところ設計の打ち合わせで何度か静岡市には来ていたようであったが、以前にはほとんど通過はしても駅に降りたことはなかったらしい。そんな二人が静岡市の駿府城址の南側に対峙するようにして建つ「静岡市歴史文化施設」の設計プロポーザルに勝利したのは、家康がつくった旧町人街（現在の呉服町、七間町）から今回の敷地へと続く、町割りに沿って人々を誘導していく、その鮮やかさこそが他案を圧倒していたからにはほかならない。すなわち駿府城址に近づくにつれ石垣やお堀に突き当たっては折れ、突き当たっては折れるその雁行するアプローチの仕方にいち早く目をつけ、その特性を建

築の配置と構成にまで波及させた。その手法には人を納得させるわかりやすさがあり、日常の中に埋没してしまっていた駿府の町人街の構成原理を鮮やかに浮き上がらせていた。

ホテルのバンケットに580人以上を集めたSANAAの講演会は、妹島氏がプロポーザルでの着眼点をこうして説明するところから始まっていった。妹島氏が穏やかでゆったりとした語り口でコンセプトを説明した後、今度は西沢氏が細部にわたる建築のつくり方を強い口調でまとめる。二人の対照的な掛け合いに聴衆は次第に聞き入っていく。

「ルーヴランズ」、「シドニーモダン」、「グレイスファームズ」、「鶴岡市文化会館」、「日立市シティホール」、「豊島アートミュージアム」、「犬島プロジェクト」と、1時間10分、170枚のパワーポイントを一気に解説してくれた。こう書くともあまりの情報量の多さに聴衆は付いていけないイメージがあるが、実際は全くその逆であった。至って平易な言葉で話すその内容には、「外と中とをつなぐ」ことにより「地域」とつながり「生活」に密着し「建築が環境化」し、建築内へと「活動」を「誘発」し、それが「風景」となって「まちづくり」へと拡張するSANAAの建築的特性が写真とともに語られ、その場に居合わせた一般の市民や学生、行政や建築関係者すべてに感動をもたらした

のだった。そしてそのことがまさに建築を通して世の中に貢献し人々の生活を形作るというSANAAの建築の力に、聴衆の実感が伴った瞬間でもあった。

プリツカー賞までも取った建築家がこんなにも何気なく気さくに等身大でものが語れるものなのか、聞いていて、見ていて、清々しかった。建築家のありがちなパターンとして、著名になればなるほど権威にまみれ、力と結びつき、市民から離れて行き…そんな有名建築家は枚挙にいとまがない。しかしSANAAを見ていると、そしてつくった建築を見れば、それが市民のための建築であることが一般の人たちにも容易にわかる内容だった。

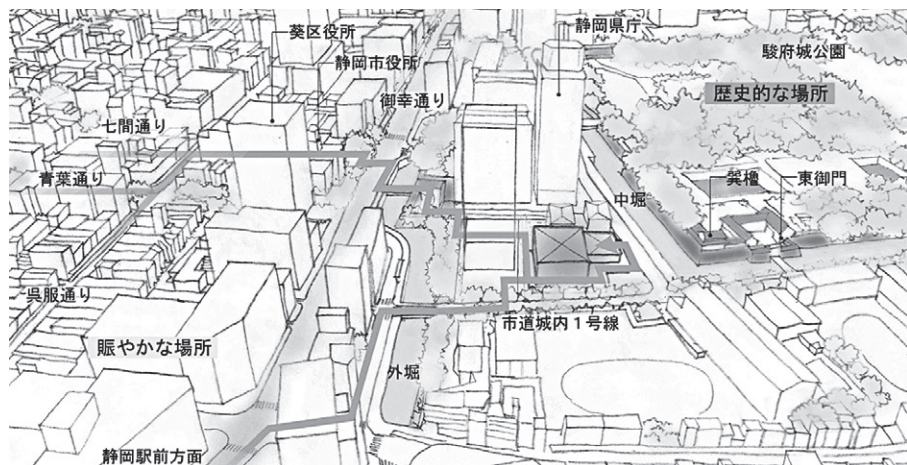
さらにこの日はこの後、犬島に到着しなければならぬ時間を気にしながらも、20分しか質疑応答の余裕がない中こんな質問に会場が湧いた。

「静岡市の歴史文化施設を設計されたが、そもそも「建築」とは誰のものだと思いませんか?…」まだ建築の世界に入って間もない若い女性からの質問に、しばらくして二人は答えた。

「…それは、利用者すべてのものですよ。ただ、自分の経験の中でこんなことがありました。ある村で建築をつくったときのこと、その村の人々はそれが公共的な建築であるにもかかわらず、まるで自分のものであるかのように建築を大事に使い、メンテし、愛してくれた。そう、そのとき建築は、村人全員の胸の中に共有されたんだと思います。」

SANAA建築の、これがすごさなのだろう。建築という実体が、まるで風景にでもなっていくかのように、デザインの域を超える瞬間を見せられた。今までにはない建築家の講演会だった。ここに居合わせた人々へ送られた、SANAAからの心のこもった贈り物であった。

鳥居久保 (JIA 静岡) |
針谷建築事務所



静岡市歴史文化施設 人々を導く雁行動線

田中流「寛容性のある建築」

去る10月18日 NAF連続レクチャーの締めとなるTSC アーキテクトの田中義彰さんによる講演を聴いた。レクチャーは、時折差し込まれるスナップ写真を交えた田中さんの生い立ちストーリーから始まった。ダンスに夢中になっていた学生時代から現場監督をされていたお父さんの死をきっかけに建築に本格的に向き合うようになったエピソードなど、終始田中さんの心のこもった話が続いた。そして、「美しい建築」を志向していた独立

当初からキャリアが積み上がるにつれて「寛容性のある建築」へと移行していく過程は、説明されている作品写真を見ても感じ取れた。それは素材の使い方などが温かみのある素材を使うようになるというような見た目の変化ではなく、プランや断面図あるいは建築の使い方において、建築に対する「寛容性」が少しずつ成熟していく過程が見て取れたように思う。私の見解だが、その端緒は特に「たきかわの森歯科クリニック」の作品に現れていた

のではないだろうか。設計する上で面積の制約が厳しい事例だったが、それだけに集合住宅の共用廊下を開いた建築とまちの使い方にもっとも「寛容性」があらわれていたのではないかと思う。世知辛い世の中で建築を続けるためには、大切なことなのかもしれないですね。



吉村昭範 (JIA 愛知) |
D.I.G Architects

学生の声

今の自分がどれだけ本気で学び・考え・夢を見ているのか。

今回、田中さんのレクチャーへの感想を投稿するということになり、講演内容を振り返るとともに、ひとり自分と向き合う機会をつくってみました。

学部3年生の私は、就職なのか進学なのか、就職ならどんな職に就きたいのか。そろそろ進路を決めないといけない人生の岐路に立たされています。私は進路について尋ねられると、「設計事務所に就職しようと思う」と答えるようにしています。しかし一方で「建築家になりたい」と答えることはできませんでした。それはなぜか、きっと「建築家を目指す＝スターを目指す」ことだと思いこんでいたのかもしれませんが。しかし、田中さんは「プロでも草野球でも野球への楽しさが同じように、建築設計はスターに至らなくても価値のある仕事だ」とおっしゃっており、その言葉で私はあることに気づかされました。

それは、大学に入学して建築を学び始めた当初の気持ちです。何もかもが新鮮

で建築家の作品を見るたびに感動し、設計課題が始まったときは本当に嬉しかったのを思い出しました。今の私は、授業、設計課題、ゼミ活動、さまざまなタスクに追われ、終わらせることが最優先になり、建築を楽しむという余裕を失っていたのかもしれませんが。無駄なことを省き効率よく行い、物理的な余裕を生み出すだけでなく、行き詰ったら初心に立ち返るぐらいの余裕を持ち合わせた人になりたいと思いました。また、先生や同級生といった周りからどう思われるのかという評価を気にしすぎていたのかもしれませんが。言うならば学内のスターかそうでないか、施主のいない設計課題において、この評価がどれだけの意味をもつのか考え直しました。

一方で楽をしてもいいということではなく、「今の状況をよくしたければ自分を変えることだ」と田中さんもおっしゃっていましたが、自分が建築を楽しめなくなっていた最大の原因は「どうせ自分には才能がないから」「あの子はセンスがあっ

ていいよね」といった自分を諦め、努力して来た人を羨ましがるだけの怠け心かもしれないとも思いました。果たして自分は本当に建築を学ぶことに向き合っているのか、忙しさを言い訳にしてやらなければならない努力から目をそらしているのではないか。今回のレクチャーを機に再び喝を入れ、本気で建築に向き合い、ぶつかっていこうと決意しました。

最後になりましたが、NAGOYA Archi Fes2019は「連続レクチャー」と題しまして講演会を全6回開催してきました。これまでにご登壇いただいた建築家の方々、本企画にご協力頂きましたJIA東海支部愛知地域会様、そしてご来場いただいた皆さまに、無事に最終回まで開催できたことをこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

澤田留名 | 名城大学理工学部建築学科3年

東海支部役員会報告

新幹事として約半年が過ぎました。初めての報告となりますがよろしくお願ひします。全国大会の後、近畿支部との交流会が続きました。大変刺激になったと同時に、すぐに顔が見える関係を築くことができるのがJIAの良さだと感じました。支部では順次事業の見直しが行われます。会報委員会から『ARCHITECT』のアンケートの経過報告がありました。個人的にはこれまで以上に意見交換、問題提起ができる場であってほしいと思います。また建築家の職能を社会に情報発信する役割も担っており、これを機会に紙媒体とWebを使い分ける検討も必要だと思ひます。

JIAは依然、海外の建築家協会に比べ会員数や社会的役割について大きな隔りがあります。今後は懸案である「建築基本法」、「建築家資格制度」、「コンペの働きかけと支援」について話し合う機会が増えます。これらについては、研修や議論を重ね、他団体とも協同しながら進める必要があると思ひます。大変なことですが粘り強く取り組み社会環境や文化に貢献する団体でありたいと思ひます。

森 哲哉 (JIA 愛知) | 森建築設計室



日 時：2018年11月16日 (金) 16:00 ~ 18:00

場 所：JIA 東海支部事務局 会議室

出席者：支部長、本部理事、幹事10名、監査2名、オブザーバー 11名

1. 支部長挨拶

今後、支部事業や本部の体制の見直しがあります。

2. 報告事項

(1) 本部報告

①第251回理事会 (石田)

②フェロウシップ委員会 (奥野)

- ・全国大会での地域会長会議の報告書をまとめる。
- ・地域活動情報データをまとめ本部に報告する。

③広報委員会 (奥野)

- ・若手勧誘リーフレット 東海支部へ300部配布。
- ・本部HPについては問題点を修正予定。意見がありましたらお寄せください。

④CPD評議会 (豊田)

- ・大学の講義については、他大学のだれでも受講できることから、社会貢献として単位を認定された。

⑤支部運営費 (澤村)

- ・事業助成金30万円 (東海支部10万円 愛知地域会20万円) 入金あり。

(2) 支部報告

①第35回JIA 東海支部設計競技一次審査結果 (間瀬)

- ・テーマ：<帝国>と向きあうわたしの住まい
- ・審査委員長：佐々木敏彦会員 ゲスト審査員：家成俊勝 審査員：黒野会員 森本会員 他2名
- ・応募作品数：13 (一般8、学生5) →2次審査対象作品：7

②「2018JIAフレッシュマンセミナー大阪」について (矢田)

- ・東海支部から2人参加 (間瀬会員 服部準会員)
- 各自、地元の名産品を持参する。→メール配信する。

(3) 各地域会からの報告 (各地域会長)

- ・岐阜地域会：愛知地域会事業委員会「猪高小学校建築教室」に参加。
- ・三重地域会：第4回三重県との防災協定締結に関する協議 12月開催 建築ウォッチング 尾鷲ツアー

みえの気候風土適応住宅勉強会

三重短期大学において 戸建住宅設計指導協力

3. その他

① 退会届 法人協会員「サムシング名古屋支店」(見寺)

② 資格制度認定委員会 委員長交代 任期は来年度から2期4年 谷村会員 →承諾。

③21世紀美術館にて北陸支部設立記念パーティー開催。

東海支部からわかれて30周年、東海支部から多数参加要請がある。(矢田)

議 事

1. 審議事項

①事業報告「東海学生卒業設計コンクール2018」(吉川)

- ・すべての応募作品の模型を展示したため会場設営費がかかったが、協賛金収入が多く集まり収支差額は95,044円余剰金が出た。
- ・入選作品本部発送費用については予め予算に組み込んでおくべき。(小田) →承認

②「開発許可制度研修会」後援名義使用許可について (澤村) →承認

③支部災害対策委員会 講演会開催について (杉山)

- ・「東日本震災復興に学ぶ」講師：手島浩之会員 (宮城地域会)
- 「コミュニティの崩壊」「孤独死」の社会現象をテーマに捉え、実際に携わった。

CPD2単位 復興公営住宅や団地についての講演会。

- ・事業計画書に参加費、参加人数、ちらし製作費を追記し、訂正してメール審議。(矢田)

- ・ちらしを製作 (1,000部) して1月に配布する。『ARCHITECT』にも同封。→(仮)承認

2. 協議事項

①本部理事改選について (矢田)

- ・東海支部 石田氏 改選。
- ・ルールに従い三重地域会 奥野氏 (11月30日立候補締め切り)

②『ARCHITECT』アンケートについて (矢田、中澤)

- ・愛知 回答率44.9% (他地域会3割回答)、30、40代は100%回答している。回答締め切り一週間延長する。
- ・結果について12月21日支部役員会で協議事項として挙げる。
- ・送付先団体からの回答は少なかったが、内容は好意的なものであった。
- ・『ARCHITECT』1月号にて掲載、2月9日会員集会 (昭和ビル9階) 開催。
- ・受益者負担 (購読料) も考える。(石田、矢田)
- ・正会員・準会員と法人協会員との意見をわけてほしい。(水野)

3. その他

①2019年度支部大会 (来年度) について (矢田)

②支部事業について (矢田)

- ・各事業の見直し、年内、各委員会を開催し、目的 意義を書面にて1月役員会までに提示する。

③12/18近畿支部との交流会について (矢田)

- ・支部会長 各地域会長 各副地域会長 計7名参加

④国交省「免震・制振ダンパーの安全性検証の方法」について (澤村)

⑤国交省「省エネ基準適合義務の対象範囲の拡大などを想定したエネルギー対策の強化策」について (澤村)

⑥「H31・32年度定期競争参加資格審査の申請受付」について (澤村)

4. 監査意見

- ・地域会役員会の議事録を会員に配布すること。(服部監査)
- ・事業についての位置付けの確認について、重要なことである。(大瀧監査)



敷地内から主屋を見る



南蔵



主屋内観



■紹介者コメント

三井家住宅は知多郡武豊町上ヶに位置する江戸中期に建てられた旧庄屋で、平成27(2015)年に主屋、奥座敷、北土蔵、南土蔵、表門の5件が登録有形文化財に登録された。

主屋は江戸中期の木造平屋建て、茅葺き屋根(現在は金属で覆っている)で、いわゆる「四ツ建て」をコアとする。建物上層農家が明和6(1769)年に庄屋を務めることとなり、家格の上昇とともに、建物を残しながら、それに相応しい梁間の変更や下屋の拡張、仏間の整備を目的とした西側瓦葺き妻屋根部分の付加など、改築を数次に及び行っている。

南土蔵は、木造2階建て平入り切妻屋根で棟札から寛延3(1750)年築造と判明している。白蟻

や雨漏りによる破損がひどく、解体修理までの延命処置として、2年前に内部から支える補強工事を行なっている。

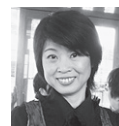
明治に入って、主屋の北側に接続して、木造平屋建て椽瓦葺きの数寄屋風建物の奥座敷とその北の道路に面する石垣の上に、木造2階建ての北土蔵を増築しており、三井家住宅敷地内に近世から近代にかけての面影を残す施設群が今も残っている。

三井家住宅の価値は、歴史的建造物だけでなく、今も4万6千点もの古文書が保存されていることにもある。江戸中期から昭和初期における地域の治安や生活ぶりを知ることができる貴重な資料であり、『三井傳左衛門家文書目録』として全3巻、武豊町歴史民俗資料館に保管されている。

登録に向けて調査が動き出すとともに、地域住民の保存活動も本格的となり、「三井家住宅を護る会」が発足した。敷地内の草刈りから始まり15年近く空き家だった建物を清掃し、三井家住宅の価値を伝える展示を整え、月に1回主屋や庭を開放しているいろいろなイベントを企画し、地域の憩いの場として活用されている。

所在地：愛知県知多郡武豊町上ヶ2
 建設年：1751～1830年 / 1830～1868年改修
 構造・規模：木造平屋建て、茅葺き(鉄板仮葺き)一部瓦葺き、建築面積128㎡
 文化財指定等：登録有形文化財(主屋 23・0453)

川口亜稀子 (JIA 愛知) |
 Liv 設計工房



データ発掘 (お気に入りの歴史的環境調査)

花沢の里



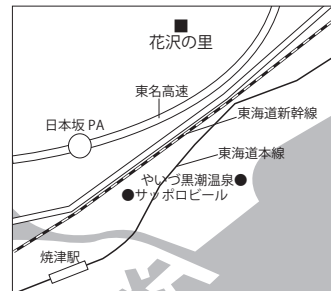
石垣の上に建つ家々



長屋門形式の付属屋



峠からの集落全景



■発掘者のコメント

焼津市北東部の山間部に30戸ほどの小規模な村がある。17世紀以来、養蚕業、茶、みかんの栽培で栄え、中でもみかん栽培は現在でも主産業として営まれている。みかんは戦後のブームで「黄金のダイヤ」まで称され、高値で取引されていたそうだ。山並みと小川に挟まれた山村で道沿いに石垣が階段状に並ぶ。この道筋は万葉集にも詠まれた、日本坂を越える奈良期の東海道といわれる「やきつべの小径」に位置する。その後戦国時代まで「葛の細道」と呼ばれたが、東海道は江戸時代に別の街道を通るようになった。平安時代までは古代の東海道沿いの集落として栄えた。

主屋は山を背にして建ち、かつては萱葺き寄棟の平屋を基本形としていたが、養蚕業を行うために中二階を持つものや、道沿いや敷地周辺に2階建てなどの附属屋を備えたものなどが生まれてきた。あたかも長屋門のような形状となっており、特徴的な家並みが連なった集落である。江戸期から昭和初期に建てられた主屋や付属屋の伝統的建造物が良く残されている。

家並みや小川沿いに積まれた石垣は亀甲積み(に似た「谷積み」)が多く、しっかりとしており、この集落の景観を特徴付けている。道沿いに並ぶ付属屋は下見板張りで黒く塗られているものが多い。焼津市街地から車で20分程度の道程で、みか

ん産業が盛んであることが、この集落が現在も存続している要因である。伝統的建造物や石垣の景観が良好な状態で残されている希少な集落である。静岡県で初めての伝統的建造物群保存地区に指定されている。

所在地：静岡県焼津市花沢地区
 アクセス：JR東海道線焼津駅下車、自動車20分。
 焼津市花沢伝統的建造物群保存地区
 参考文献：『静岡県の歴史散歩』(山川出版社) 静岡県日本史教育研究会、『静岡県の地名平凡社』(平凡社) 地方資料センター 2000年、『日本の町並 I』(平凡社) 湯原公浩 2003年、文化庁報道発表

鈴木祥司 (JIA 愛知) |
 アトリエ祥建築設計



JIA 三重 建築文化講演会2019
小堀哲夫「建築と環境と人間」

CPD 2 単位

三重地域会では、建築文化の創造と発展に貢献することを目的として、毎年『建築文化講演会』と題し、話題の建築家の先生をお招きして、講演会を開催しております。

本年度におきましても、下記のとおり開催が決定しましたので、多くの方々のご参加をお待ちしております。

日 時：2019年1月19日13時30分～15時30分（開場13時）

会 場：アストホール

（三重県津市羽所町700 津市アストプラザ4F）

同時開催：JIA 三重建築展 アストホールホワイエ

講 師：小堀哲夫氏（小堀哲夫建築設計事務所）

参加費：無料

定 員：270名（当日先着順）

主 催：日本建築家協会東海支部三重地域会

共 催：三重県建築士会

後 援：津市

宮城地域会・手島浩之氏講演
『東日本震災復興に学ぶ』講演会

CPD 2 単位

東日本震災から7年が過ぎ、各地で復興の姿が見えてきました。宮城地域会の会員が担当した復興のまちづくりには、新しい思考が見られます。地域コミュニティーの崩壊や、高齢者の孤独死の社会問題にコミットした公営住宅や公営団地、街区が建設され復興のまちづくりが行われています。設計者を招きお聞きする講演会を企画しました。皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

※調整のため、下記の内容は変更になることがあります

日 時：2019年2月2日（14:00～16:00）

会 場：TOTOセミナールーム（大名古屋ビルヂング）

講 師：手島浩之氏（都市建築設計集団／UAPP、宮城地域会）

参加費：1,000円（資料代等）

申し込み先・主催：

日本建築家協会東海支部 事務局

TEL 052-263-4636 FAX 052-251-8495

E-mail shibu@jia-tokai.org

地域会だより

<東海支部>

11/30～12/1 フレッシュマンセミナー

12/8 東海支部設計競技2次審査・表彰式・記念講演会

12/18 近畿支部との交流会

2/9 会員集会

<静岡>

11/29 静岡地域会役員会

12/14 静岡地域会役員会・JIA 塾スライド会・忘年会の開催

1/28 静岡地域会拡大役員会

<愛知>

9/28～1/25 名市大・JIA2018年後期授業「建築家の仕事」

11/18 住宅研究会「連続環境セミナー」第3回

11/20 事業委員会「猪高小学校建築教室」第2回

<岐阜>

11/20 愛知地域会 事業委員会 猪高小学校建築教室への参加

12/5 愛知地域会 事業委員会への参加

12/13 第7回役員会（忘年会）

1/17 第8回役員会

1/12 新入・転入会員ガイダンス、法人協力会主催新年会

<三重>

11/17 建築ウォッチング 尾鷲ツアー

11/19 「みえの気候風土適応住宅」勉強会

11/21 三重短期大学において戸建住宅設計指導協力

11月 第4回三重県との防災協定締結に関する協議

12/7 第5回例会、会員研修 会員発表会

1/19 建築文化講演会2019 小堀哲夫「建築と環境と人間」

1/23 研究・社会活動「三重短大設計授業協力」第3回

1/29 「みえの気候風土適応住宅」第2回勉強会

新年あけましておめでとうございます 2019年

<p>企業組合 針谷建築事務所</p> <p>代表理事 鳥居久保 静岡市駿河区小黒 3-6-9 TEL 054-281-1155 FAX 054-282-5502</p>	<p>(株)伊藤建築設計事務所</p> <p>取締役会長 森口雅文 代表取締役社長 小田義彦 名古屋市中区丸の内 1-15-15 桜通ビル TEL 052-222-8611 FAX 052-222-1971</p>	<p>(株)石本建築事務所 名古屋オフィス</p> <p>オフィス代表 植野 収 名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル TEL 052-263-1821 FAX 052-264-1990</p>
<p>(株)城戸武男建築事務所</p> <p>代表取締役 城戸康正 名古屋市中区丸の内 2-11-23 富士和ビル 2F TEL 052-231-5451 FAX 052-231-5450</p>	<p>(株)黒川建築事務所</p> <p>代表取締役 黒川喜洋彦 名古屋市中区鶴舞 2-10-5 TEL 052-882-0281 FAX 052-871-1884</p>	<p>光崎敏正建築創作所</p> <p>光崎敏正 名古屋市中区千種区四谷通 1-7 ビレッチ四ッ谷 2F TEL 052-781-5523 FAX 052-781-5524</p>
<p>(資)三共建築設計事務所</p> <p>服部 滋 名古屋市中区伊勢山 1-1-1 伊勢山ビル 4B TEL 052-321-9591 FAX 052-321-9594</p>	<p>(株)三和建築事務所</p> <p>取締役社長 見寺昭彦 名古屋市中区港栄 4-5-5 TEL 052-661-2211 FAX 052-661-2247</p>	<p>(株)地域計画建築研究所 名古屋事務所</p> <p>中部統括技監 尾関利勝 名古屋市中村区名駅南 1-27-2 日本生命笹島ビル 17F TEL 052-462-1030 FAX 052-462-1061</p>
<p>(株)田中総合設計</p> <p>取締役会長 佐藤東亜男 代表取締役社長 近藤 真二 名古屋市中区丸の内 1-8-39 TEL 052-211-4035 FAX 052-201-9285</p>	<p>一級建築士事務所 デザイン スズキ</p> <p>鈴木利明 豊橋市東小鷹野 4-4-8 TEL 0532-61-4245 FAX 0532-61-4215</p>	<p>(株)中建設計</p> <p>代表取締役 石田 壽 名古屋市中区栄 2-2-12 NUP 伏見ビル 5F TEL 052-222-7850 FAX 052-222-7856</p>
<p>中日設計(株)</p> <p>取締役社長 清谷英広 名古屋市中区筒井 2-10-45 TEL 052-937-6711 FAX 052-937-6881</p>	<p>(株)中建築設計事務所</p> <p>代表取締役 廣瀬高保 名古屋市中区新栄 1-27-27 TEL 052-262-4411 FAX 052-262-4414</p>	<p>生津建築設計室アーキハウス</p> <p>生津康広 尾張旭市桜ヶ丘町 2-59 グランドアーツ桜ヶ丘 301 TEL 0561-51-5002 FAX 0561-51-5011</p>
<p>森建築設計室</p> <p>森 哲哉 名古屋市中区天白区植田本町 2-812-1 TEL 052-807-3205 FAX 052-807-3206</p>	<p>(株)ヤスウラ設計</p> <p>代表取締役所長 水野豊秋 名古屋市中区新栄 2-35-6 TEL 052-241-7211 FAX 052-241-7333</p>	<p>(有)矢田義典建築設計事務所</p> <p>代表取締役 矢田義典 名古屋市中区東区社台 1-187 TEL 052-771-2592 FAX 052-771-2617</p>
<p>(株)ワーク・キューブ</p> <p>桑原雅明 吉元 学 平野恵津泰 名古屋市中区正木 1-13-14 TEL 052-265-8412 FAX 052-265-8402</p>	<p>(株)車戸建築事務所</p> <p>代表取締役 車戸慎夫 大垣市鶴見町 73-3 TEL 0584-78-8311 FAX 0584-73-3401</p>	<p>ヒロプランニング</p> <p>山田浩史 各務原市那加門前町 1-27-2 門前ビル 2-1 TEL 058-380-2313 FAX 058-380-2314</p>
<p>(株)野村商店</p> <p>代表取締役社長 野村勝也 静岡県伊東市萩 578-216 TEL 0557-44-6600 FAX 0557-44-6618</p>	<p>T O T O (株) 中部支社</p> <p>執行役員中部支社長 鈴木賢一 名古屋市中村区名駅 3-28-12 大名古屋ビルヂング 12F TEL 052-308-4718 FAX 052-308-5492</p>	<p>パナソニック(株)エコソリューションズ社 中部エンジニアリング部</p> <p>部長 久米任弘 名古屋市中村区名駅南 2-7-55 TEL 052-586-1061 FAX 052-581-7734</p>

建物を支えるのは基礎!厳しい管理で間違いのない品質

法人協力会通信 39
＜静岡＞

石渡孝司 | 株式会社野村商店静岡営業所



私たち野村商店は静岡県の東部は伊豆半島の東側、温泉地として有名な伊東市に本社を置く建築資材の総合商社です。セメントや左官材・管材や衛生陶器などの資材販売の他にも外構工事、外壁工事、住設工事、タイル工事などの各種工事の請負、生コンク



杭工事の様子

リート・インターロッキングブロックなどの製造もやっています。創業は1922年で創業100年まであと3年とちよつとになります。100周年にむけて従業員一丸となってがんばっております。

いろいろな取扱商品がある中で、私は主に建築工事の地業工事、特に地盤改良工事や杭工事の担当をしております。設計事務所さまへの提案営業から現場をおさめるまでをやっております。3年前の横浜の事件以降、現場管理に対しては大変厳しくなりました。私どもも管理専門の人間も雇い、より厳しく管理できるようになりました。おかげで間違いのない品質の工事ができているのではないかと思います。

今思い返すといろいろな現場を経験しました。掘削時に地盤が崩壊して杭が打てなくなってしまった現場、オーガー掘削がまったくできなかった現場、現場や道路が非常に狭く

重機や材料の搬入が困難であった現場などさまざまなトラブルに見舞われました。地盤との闘いになるので予想外のことも多く、いやになってしまったことも多々ありました。それでも元請さま、設計事務所さま、役所さまなどと知恵を出し合ってなんとか解決してきました。(解決できずに工法変更になることもありましたが…)

今までの経験を糧に、建物を支えるのは基礎であるということを忘れずに今後もがんばっていききたいと思います。

●若手社員を中心にTwitterにて情報配信中です。よかったらフォローをお願いします。(@nomura_u36)

●株式会社野村商店静岡営業所
静岡県静岡市駿河区西島700-1
TEL 054-284-3461 FAX 054-284-3635
URL <http://www.nomuragroup.com>

編集後記

●今月の『ARCHITECT』には先のアンケート結果が掲載されています。皆さんはそこから何を読み取られたのでしょうか。今春には年号が変わります。『ARCHITECT』も時代に沿ったものになるのでしょうか。さて、ご存知の通り、日本の人口は2007年から減少し世界でも経験のない速さで高齢化、少子化が進んでいます。1級建築士の受験者数も過去5年間で1割減、合格者数は2割減です。このような状況下でのJIA会員増は至難の業です。当然ながら今後は財政も厳しくならざるを得ないでしょう。そんな中、2年目となる名市大での特別講義も終盤を迎えています。一人でも多くの学生が建築の面白さを感じとってもらえれば幸いです。

(城戸康近)

●8月号から始めた緊急連載『ARCHITECT』は必要ですか?で、今号は法人協会員を含む会員のみなさまと寄贈送付先へのアンケート結果を掲載しています。その中で、正・準会員の回答率は45.90%。ここに半数以上の会員の意志が反映されておらず、これは『ARCHITECT』の購読数を示すと同時に、東海支部の現状を示す結果であったといえます。各設問とも回答結果は多様であり、アンケートのみで今後の方針を決めることはできませんが、今回の結果をふまえ、次号では矢田支部長から今後の方針に関する試案が提示される予定です。みなさまにはぜひ試案を確認いただき、2/9の『ARCHITECT』継続・休刊に関する会員集会に参加いただきたいと思っています。会員集会では、今回の結果をより多角的に分類した内容も提示したいと考えています。ちなみに今回の年代別回答率は40代≒64%、50

代≒50%、60代≒40%、70代≒42%、80代以上≒33%でした。(中澤賢一)

ARCHITECT

第364号

発行日 2019.1.1 (毎月1回発行)

定価 380円(税込み)

発行責任者 矢田義典

編集責任者 中澤賢一

編集 東海支部会報委員会
愛知地域会ブリテン委員会
建築ジャーナル内

ARCHITECT 編集部

名古屋市中区東 1-1-31 吉泉ビル 703

TEL (052) 971-7479 FAX 951-3130

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区東 4-3-26 昭和ビル

TEL (052) 263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

<http://www.jia-tokai.org/>